3 2008年4月20日 (隔月20日発行) 通巻266号 1982年8月10日... **TTOIS EFFTYIV-12 No.266**May-June 2008



りまり入のつながりが、未来をつくる

ベトナムの山村で生きるために ――



農地を求めて山奥深くまで入って森林を 拓いてきた結果、山肌は剥げ、斜面が急 ぎて段々畑を造ることも難しい。



村人の希望で実施した苗畑設置の技術研修。木は10~50年かけて育つため、未来の世代に資源を残すことになる。

のつながりが、

ベトナムの山村で生きるために

JVC がベトナムで進めてきた農村での活動が、今年度末で終了を迎える。 ただ農村で汗を流すだけでなく、日本を始めとする諸外国との地域を越えた 経験交流も積極的に進めてきたこの活動から、私たちは何を学ぶことができ るのか。経済成長著しいベトナムという国において、農村で外国のNGOが 活動する意味も含めて、見えてきたもの、そして今後に向けての報告を、現 地に長く駐在するスタッフからお届けする。(編集部)

また、 貧困層の暮らしを圧迫している。 には物価上昇率が一〇%を越え、 ように売れているが、 まで達した。都市部には中間層が りのGDPが約八百二十米ドルに は経済成長率が八・五%、一人あた 済発展に邁進している。○七年に 投資を積極的に受け入れるなど経 新築マンションや車が飛ぶ 大気汚染やゴミ処理などの 〇七年後半

農村部の人々の暮らしを支えてい 失やそれによる水資源の減少など、 打撃を受けている。また、 米や飼料用トウモロコシの生産が の影響と見られる洪水や干ばつの 難に遭っている。例えば、気候変動 でもある。しかし、農家は様々な困 出量が世界第二位という農業大国 農業を営み、 方、 病害虫の被害により、主食の ベトナムは人口の六割が コメやコーヒーの輸

引き下げられており、今後、安価な O加盟後、海外から輸入される食 いくことが予想される。 家の暮らしはさらに困難を極めて 輸入農産物が流入することで、 品や農産物などへの関税が徐々に 続けている。さらに〇七年のWT る自然資源の質と量がともに減り

向がある。こうした支援ももちろ H-V/エイズなどへ集中する傾 の援助は鳥インフルエンザ対策や ん必要である。 こうした状況のなか、 しかし、 食の安全などの 人間が生きてい 「食料をいか 、気候変動や 海外から そ

うにするための支援が、

トナム滞在は早十 に取りつかれ? くでで、農村の魅力 とでで、農村の魅力 に日本の大学院を 大山に留学。その後 大学卒業後、ベト **|**プロフィー

代償を伴う「発展

JVCベトナム

伊能

環境問題も深刻化している。 所得国になることを目指し、 トナムは二〇一〇年までに中

の自然環境を回復し、農家が農業 そうした意味において、ベトナム を続け、 支援が必要なのではないだろうか。 境と生産者の暮らしを守るための れを生み出してくれている自然環 して食料を確保するためには、 より重要だと思えるのである。 に確保していくか」ということが くためにまず必要な 現在においては、 深刻な問題が顕在化してきている 自然資源の減少、 農村で暮らしていけるよ

が急速に増えたため、

村人は山

見事な棚田や

対象村では過去五十年の間に人

ことから、土壌は疲弊し、

風雨に

にあまり重点を置いていない 日本の農家のようには「土作 で斜面の利用が得意ではないこと もともとムオン民族は平野部の民 段々畑を築きあげてきた。 の斜面を切り開き、

しかし、

増して重要になってきている。 以前に

農村で取り組むべきこと

の三点である。 分たちが進む方向を判断していく らの暮らしを支えている自然資源 ソン村、ナムソン村、ディックザオ村、以下 食料自給の確保、そして、 活動の柱は①土壌流出の防止、 せるための活動に取り組んでいる。 を守りながら、 ビン省タンラック郡内の三村*** ために必要な**③情報と機会の提供** しく変化する生活環境の中で、 対象村) に住むムオン民族と共に、 VCt, 北部山岳地域のホア 食料自給を安定さ めまぐる (2)

日本企業のベトナムへの投資累計件数は07年末までに900件(全外国投資件数の約10%)を越える。 ※注① ※注② ベトナムの行政単位は中央ー省一郡ー(行政)村となっており、(行政)村は複数の集落からなる。

土壌が疲弊しないように、土壌中の有機物のバランスを保ち、常に落ち葉や家畜の糞などを用いて 土を肥やしていくこと。

ベトナム「住民参加型農村開発」プロジェクト

活動

ĺţ た。

自給できることの重要性

また、

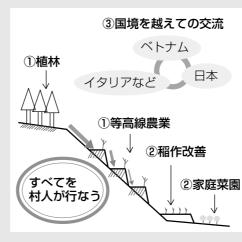
国際会議に出席した村

と活動に取り組んでいきたい

トナム人スタッフ共々、

- ①土壌流出の防止 → 植林、等高線農業
- ②食料自給の確保 → 稲作改善(米の増収)、家庭菜園(冬場も野菜を)
- ③情報と機会の提供 国際会議への参加など → 日本の農家と交流、





全水田 であ には には 月末にかけて寒波に襲われ、 り ど主食の米を自給できないが、 象村の村人は、 となっている。例えば、 こ数年続いている気候の変化によ 次に食料自給の確保である。 った。 米の生産がより不安定なもの 大型台風に襲われ、 「いもち病」が発生し米が不作 面積の さらに〇八年 加えて、 年間三~六ヵ月ほ 同年 〇七年二月 七月・十月 月から %で不作 各村では 村の 対

われ 響が見られる。 流出の深刻な影 きないなど、 ロコシが 12 いった。土砂崩. により人命 たり、トウモ 収穫で 、土壌 が奪

くり委員会」を設立しその運 改善策を作る場である「村づ 民自身が村の課題を話しあい な農法や土壌改善の推進、 地域の環境に配慮した持続的 ン省タンラック郡において、 収穫量が減少しているホアビ 流出や水不足によって作物の

住

ホアビン省

タンラック郡

D

ホアビン省:ハノイから約 120km に

位置し、人口の7割が少数民族のムオン

民族、8割以上の住人が農業を営む。

けて、 あった。 の実 帯の状況ごとに傾斜地利用の のあるマメ科の植物を植えていく 計画を作成し取り組んでいる モデル世帯を選定してもらい 技術研修を実施したり、 ことなどが提案された。 流出防止を目指し、 ためにはどうしたらよいかを話 的 施 JVCは苗木生産のための 傾斜地 その結果、村人からは植林 傾斜地の土壌改良と土壌 から作物を得ていく 土留めの効果 各集落で これを受 長期 世

. して ばかりの苗も打撃を受けた。 た雑穀を植えたり、 きるように」と、 こうした状況下、 ・水牛の 約

めに、 見られた。 冬季の野菜不足にも一定の改善が 様な食材の確保に繋がった。 技術研修などを開催した。 紹介したり、 うした村人の取り組みを支えるた を注ぐようになった。 族が食べるものを少しでも確保で 米の増収や魚やアヒル 稲の増収が見込める農法を 雑穀や野菜に関する しばらくやめてい 家庭菜園に力 しくこはこ その結 など多 また、

村人と長期的

· 短

まず、JVCは

晴らし Ŋ い点を伸ばすための計画を立て始 ている。 は日本の農家や地域振興に携わる 機会が必要である。そこで、JVC 面的に分析する力をつけるための 況を比較し、 いくために、 を客観視し、情報を吟味・選択して 偏った情報が送られてくるベトナ する活動である。 方に日本の農業や農村の状況を村 ムの農村においては、 人に話していただく機会を設けた 最後に、 村人と共に国際会議に参加し 2村では村の自然や文化の素 さを改めて認識し、 こうした活動を通じて、 情報と機会の提供に関 ベトナム国内外の状 広い視野と物事を多 トップダウンで 村人が現状 村の 良 ナ

割が凍死し、 植えた

よって流出

■過剰な森林伐採による土壌

女性たちは

伝子組換え技術や改良種が持つ の影響について学び、在来種の見 しと復元などに取り組み始めた。

たくましい仲間たちと

ても 幸運に思う。 共にチャレンジしてこれたことを 村人にも出会うことができた。そう 解決していこうとする、たくましい 課題に立ち向かわざるを得ない村 σ 関わるようになって五年が経つ。そ した村人と語りあい、新たな課題! 人の姿を目の当たりにしてきた。 間 私がホアビン省タンラック郡 、同時に自分たちなりに問題を 速いスピードで変化し、新たな 村人を取り巻く生活環境はと

さんの村人の笑顔に出会えるよう の夢や希望を縁の下で支えていく 持って暮らしている。こうした村 の不順や病害虫の被害に遭っても 作業という重労働をしながら、天候 らも村に住み続けたいと考えてい の村人が自分の村が好きで、これか 村人との合い言葉は ことはNGOの重要な役割である。 決して笑顔を絶やさず、夢と希望を ることだ。 (楽しいことが いと思うのは、若者を中心に多く 対象村において、何よりも素晴ら 村人は、 番)」。 急な斜面での農 -Vui もっとたく la chin

※注④ 別名「稲熱病」と呼ばれ、稲の三大病害の つとして恐れられている。カビの一種である 「いもち病菌」に稲がおかされ、稲の減収や枯死を招く。 ※注⑤ アヒル水稲同時作、魚水稲同時作、幼苗一本植え(SRI)の3つの農法。

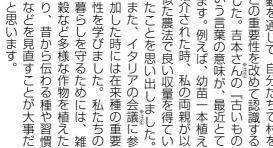
村づくり委員会 委員長

います。私はJVCの支援により果樹の接 木研修に参加しました。日本から来た有機 分で考え、応用していくことが大事だと思 かん栽培農家の吉田さんから、日本での JVCの研修で学んだ技術や情報を

みかんの世話の方法や接木技術について学 れを知った村の人々が質問の準備を始めたところ、そ とを元に接木を行なうため れからも学んだことを実践 びました。研修後、学んだこ して、他の村人にも伝えて に来ることもあります。 いきたいです。



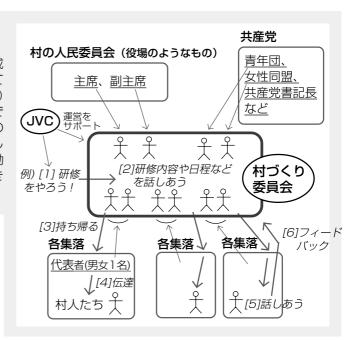
(SRI)を紹介された時、もよくわかります。例えば、 前とてもよく似た農法で良い収量を得てい は新しい』という言葉の意味が、最近とて ようになりました。吉本さんの 守っていくことの重要性を改めて認識する JVCの活動を通じて、自分たちで村を を紹介された時、



村づくり委員会とは

村づくり委員会は、村の代表(人民委員会)と村を構成 する各集落の代表2名(男女1名ずつ)などで構成されて います。本活動の第一フェーズ(99年4月~04年3月) および第一フェーズ延長期(04年4月~07年3月)で は、村づくり委員会を設立し、この委員会を通じて村人の 声をもとに生活改善のための活動を計画・実施してきまし た。その中で、村づくり委員会を中心に住民参加型の活動 計画を立案・実施するための研修や経験交流を実施してき ました。

- ※注① 吉田浩司さん:熊本県水俣市で有機みかんの栽培に取り組む農家。06
- 年8月にバクソン村・ナムソン村に招聘し、経験交流を実施。 吉本哲郎さん:地元学ネットワーク主催者。05年9月にバクソン村・ ナムソン村に招聘し、地域の素晴らしさを発掘することを目的とした 「あるもの探し」を実施。
- ※注③ 幼苗一本植え (SRI): 種まき後10~14日ほど経った苗を一本づつ間
- 隔を空けて植え、分けつを促進し増収を図る方法。 イタリアの NGO、スロー・フードが隔年で実施している「Terra ※注④ Madre」のこと。チュエンさんは06年に参加。この年は種が大きなテ マの一つとして取り上げられていた。





くり委員会 | のお二人に話を聞いた。

自分の村は自分でつくる、

『村づくり委覧

村での活動では、「村づくり委員会」という組織が重要な役割を 担っている。そこで、JVCの活動について、ナムソン村の「村づ

バクソン村、ナムソン村では、

中川氏は、山梨県の中山間地域で

中川智氏 今回の講師

を開催しました。

1937年生まれ。山梨県上野原市 在住。元立川市役所職員で、仕事の かたわら、両親とともに農業に従 退職後は雑穀栽培農家として 東京学芸大学や立教大学の雑穀保 全・研究に協力している。

■ 農園の経営規模

農地:約6.000m²、家庭菜園:約 1,000m²(傾斜地の割合:約1/3)

中川氏(左手前)自らクワを振るう姿に、 学に来た村人たちも興味津々だった。

ムで雑穀栽培を

「雑穀」は日本の中でも昨今の健康食ブームで注目を浴びている。元々、水田が 作れない山村地域で主に作られつづけてきたが、近年の農業衰退化もあって栽培 地域は少なくなっている。ベトナム・ホアビンでは、ここ数年の自然災害による 不作で、村人の間で逆に雑穀見直しの気運が高まっている。以下は、在来の雑穀 を守り栽培を続けてきた中川智氏招聘のワー ークショップ報告である。(編集部)

現地に招聘し、雑穀ワークショップ 営している中川智氏をこの三月に に適した作物でもあります。そこで シと混作することが可能で、傾斜地 では以前から雑穀を先祖から受け たちによって見直されています。村 元々植えていた雑穀の存在が女性 熱心な指導をしていただき、村人も ければならない」など、実践だけで なく農業に対する考え方も含めて もらったのなら、畑にお返しをしな 浸透させ、『畑のダム』を作る」「家 ていくには、深く耕し、粘土質の土 用した加工品作りを行ない、その後 真剣に耳を傾けていました。 畜糞や枯葉などを使い肥料を入れ、 を細かく砕き、雨が降っても土壌に いました。「傾斜地をうまく利用し に畑で実際に植付けの実習を行な 『土作り』を行なう。 畑から収穫を 講義の合間にはソバや雑穀を使

ましたが、雑穀の多くはトウモロコ 最近は植える人が減少してきてい す。脱穀に手間がかかることから、 炊いたり、粽などにして食べていま 継いで栽培しており、モチ米と共に

JVCは、山梨県の山村で農園を経

ショップでは、氏の農園で行なって 雑穀、小麦、ソバ、野菜などを栽培 の状況を紹介されました。 や、村の暮らしや文化、傾斜地利用 いる雑穀栽培、保存、 しながら暮らしています。ワーク 加工の様子

不作が続いています。そのため、 ており、主食の米やトウモロコシの らには病害虫の被害などが頻発し 年、この地域では洪水や干ばつ、さ をあてた活動を行なっています。近 在、土壌流出防止と食料確保に焦点

ました。 度を保つためにどういうことが必 りました。雑穀を作り耕してきま 術、食べ方、それぞれが印象に残 要なのかなど、大きな収穫となり ていただき、感謝しています。技 したが、土を良くしたり、土の湿 中川さんには遠いところまで来

て実施していきたいと思います。 はできませんが、少しづつ応用し らったこと全部を一度にやること 回のワークショップに参加して とても感謝しています。教えても れてきた貴重な雑穀をもらって、 つきました。また、代々受け継が ていない部分があったことに気が 可能性、知識がまだまだ発揮でき かなえるようになりましたが、今 自給という面では自分の家族はま 私自身も工夫して畑を耕して、

バクソン村 ブオンさん

くても作物が十分に採れるのでは 斜地に木や牧草を植えることで緑 れば、村人の労働も軽減され、傾 ないか、という指摘です。そうす の周囲の農地を集中的に肥やし、 体的で実践的でした。例えば、家 の先生から教わるよりもとても具 とても有意義なものでした。大学 だいた技術や経験は、私にとって 利用すれば、遠くの山まで耕さな 今回、中川さんから教えていた

壌流出が大きな問題となってい きます。 だいた、傾斜地を持続的に利用し すが、私は中川さんに教えていた ても印象的でした。対象村では土 心に伝えている中川さんの姿がと もよみがえり、家畜の餌も確保で 村人にご自分の経験や技術を熱

■ グエン・ホン・マイン JVCベトナム 事業補佐(農業)

いです。

ながら、少しづつ実践していきた

ていくコツを村人と共に話しあ

谷山 博史 (代表)

自分で料理したものを食べ、丸腰で日本の 地域の人々と付きあい、当事者感覚を養う。

磯田 厚子 (副代表)

2年前の抱負が実現できなかったので、再び、勤務校の農園で一坪菜園をやりたい!

清水 俊弘(事務局長)

地球温暖化との葛藤に悶えながら、うまい 石窯パンを焼く。

壽賀 一仁(事務局次長)

はしゃがぬように、ねたまぬように、焦らぬように、(できるだけ)目立たぬように。

鈴木 まり (カンボジア事業担当)

酒の肴のレパートリーを増やす(近所のうるさい酒屋と日々の和食の店に通う口実?)

川合 千穂 (ラオス事業担当)

昨年の抱負はいくらも経たない間にあっけなくダメに。なので、今年は「秘密」。

下田 寛典(タイ・ベトナム事業担当)

演劇活動再開! 今年は役者として舞台にのぼります。目指すはチケットノルマ達成!

渡辺 直子 (南アフリカ事業担当)

今年こそは運動をして全身のたるみをくいとめる。

長谷部 貴俊 (アフガニスタン事業担当/現地代表) パシュトゥー語を片言話すこと。整理整前

パシュトゥー語を片言話すこと。整理整頓ができること?

谷山 由子 (アフガニスタン事業担当補佐) アフガン痩せを克服すべく、全国名物食べ 歩き報告会をしたい。協力者募集中です。

西 **愛子**(アフガニスタン事業 保健アドバイザー) 健康教育の第 1 歩として事務所スタッフの メタボ予防プロジェクトを成功させたい。

藤屋 リカ (パレスチナ事業担当)

自転車でエコ生活。片道10キロまでの移動 にかかるエネルギーは体脂肪から拠出する。

佐伯 美苗 (スーダン事業担当)

アフリカと歩こう」!一歩一歩、確実に。

後列左から: 武繁、下 田、渡辺、広瀬、鈴木、 高橋

中列左から:藤屋、香取、川合、石川、寺西前列左から:細野、磯田、谷山博史、清水、佐伯

上枠内: 壽賀 下枠内左から: 西、長 谷部、谷山由子



寺西 澄子 (コリア事業担当・会員担当) 屋上緑化の再開。もう少し手をかけて収穫 の喜びを皆と分かち(押しつけ?)あう。

高橋 清貴 (調査研究担当)

これから重要な政治イベントがいっぱい。 振り回されず、機会としてODAを変える!

香取 佐和子 (経理担当)

東洋一の響きを誇る県立音楽堂で、さくら ハーモニーの皆で歌う。

武繁 政昭(経理担当)

1日4時間の通勤時間を利用して、年間 100冊の本を読む。

広瀬 哲子 (広報担当)

東京マラソンに当選するようくじ運を磨く。 フルマラソンに備え、今年はハーフに挑戦。

細野 純也 (会報誌レイアウト・総務担当) ブログで5,000PV/月、NGOの情報発信を 促したい。自転車で中距離イベントに参加。

荻野 洋子 (カレンダー事務局担当)

日々に溺れず自分を深めたい。「いまさらぁ?」「いいでしょ、ほっといて!」55歳。 石川 朋子 (コンサート事務局担当)

趣味をつくる。まずは「合唱」と「ジョギング」という苦手なものから試してみる。

東京事務所 (21名)





エング・セイラ (CLEANフィールド・スタッフ) JVCのスタッフをよく知り、みんなからい ろいろなことを吸収したい。

ムット・ロット (CLEANフィールド・スタッフ) 農業技術改善に貢献し、農家の生活を良く する。家族を支えるため貯蓄を始めたい。

パオ・リツ (CLEAN 運転手/総務補佐) JVCの活動がうまくいくように安全運転を 心がける。新しい家を持ちたい。

サーイ・ボラ (環境教育(EE)プロジェクト・コーティネーター) 新しい地域で、環境教育を多くの学校に取り入れてもらえるよう努力する。

チューン・ソチエット (コミュニティー 資料センター 様々な研修や相互訪問プログラムなどを実施し、CRCの活動を強化したい。

イン・コック・エン (資料・情報センター (TRC) 同書) TRC の活動を効果的に行なうため、新しい 印刷機を獲得できるように努力したい。

ピン・パン(運転手、TRC/CRC/EE/総務補佐) JVC の活動を円滑に行なうべく、新車があ るとよい。今の車は修理代がかかりすぎる。

チン・ブン・ヒェン (警備、TRC/CRC 補佐) JVC の資財をしっかりと守る。今年の目標 を設定し、それを達成するように努力する。

ノプ・ティム(技術学校アドバイザー) 移転後の技術学校がはやく独立採算になる ように努力する。自分の健康を取り戻す。

ドゥオング・リンダ (会計・総務) 心に平安を。良い仕事をするよう努力する。

サ・スィネン (清掃担当)

事務所を清潔に保ち、スタッフが活動しや すい環境を整える。健康に留意する。

ダン・ソン (警備、TRC/CRC 補佐)

TRCの活動がより良くなるための知識を身につける。娘たちが良い職に就けるといい。

ニェック・トドララ (TRC アシスタント) 健康を保ち、良い活動を行ない、成功したい。

ベトナム事務所 (6名)

|伊能 まゆ (現地代表兼事業担当)

08年度はホアビン事業が終了し、ベトナム 滞在10年に。良い区切りの年としたい。

グエン・ホン・マイン (事業補佐・農業担当) 英語を習い、スポーツに励む。特にサッカー の技術を磨きたい。それから若さを保つ。

ファン・テイ・リエン・フオン (事業権生 情報 ネットワーク担当) 英語のブラッシュアップと卓球を習いたい。 他の知らない地域を旅行したい。

バイン・ニュー・トゥイ (インターン) 恋人を見つけたい。英語も上達したい。

ドー・テイ・トウー・フオン(総務・会計) 総務や対外交渉のスキルを向上させたい。 経営についても学びたい。







ハミドゥッラー・マルーフ (教育・コミュニティー活動) 戦争に終止符を! 子どもに教育を! 国際社 会はアフガンへの支援を続けてほしい。

ミル・ジャマー・ジャマル (医療事業補佐) すべての国民に雇用を! 男女に平等の権利を! すべての子どもに教育を!

モハンマド・シャプール・サフィ (医療) 地域(医療調整員) この国の人々の健康状態の改善に力を尽くしたいと思います。

ファヒーム・アハマド (経理) まず平和! 人々が自力で開発に立ち上がる 力を持てるような支援を望みます。

サイード・モハンマド・サイード(総務) アフガンの人々が十分に食べられるだけの 食料が確保されることを願っています。

アブドゥル・ラジク(守衛) 子どもに教育を受けさせるためにこれから も JVC で働き続けたいです。

デラワール

新しいことを学びたい。

イザトゥッラー(守衛)

JVCの仕事を続けて子どもにいい教育を 受けさせられるよう任務に励みます。

アガ・グル・パチャ(運転手兼守衛) 子どもを学校に行かせるためにこれから も JVC の仕事に励みます。

アフガニスタン事務所(28名)

サイード・サファール・アガ (総務) 私の子どもたちが皆いい教育を受けられ るよう頑張ります。

ザマヌラー・メムラワル(運転手) JVCの仕事が続けられますよう。今年は 結婚します。

サビルッラー・メムラワル (治安・総務) 我が国の人々が平和志向になるよう! 長く険しい道のりを覚悟でチャレンジ!

JVC Staff 2008

103人、今年の抱負

新井 綾香 (現地代表)

思い出残し。村の美しい風景や3年間支えてくれた人たちと多くの時間を過ごしたい。

ブンシン・サナホーン (農林コーディネーター) 新築の家 (70%) を完了させ、3人の息子 が将来大学へ行くための貯金をする。

フンパン・センチャントン (農業担当) 農村開発スキルと英語力を高める。

クンタノン・バンタノウォン (アドミ担当) 農村開発の活動についてもっと学びたい。 修士号取得のための勉強もしたい。

ペッ**ダワン・シパセゥ** (森林担当) 日本語を学びたい。英語力も高めていき、 家の建築を完成させたい。

スックニーダ・スォトキ (森林担当) GIS (地理情報システム) を学んで森林管理 の知識を高めたい。

マニコーン・テプソンバス (農業担当) ヴィエンチャン市に家を建てる土地を購入 したい。英語も学んでいく。

スワニー・マントンドィー (アドミ担当) JVC の業務に最善を尽くす。

尾崎 由嘉(森林担当)

物が壊れては募るストレスを、流行りの バドミントンで解消!

ラオス事務所 (9名)

カンボジア事務所(19名)





山﨑 勝 (現地代表)

クメール語のお経を最後まで覚え、日本に 住む家族の分まできちんと徳を積む。

サム・ネアリー (CLEANシニア・トレーナー) 農家の人がトレーニングの後に習ったこと を実施していけるようにサポートする。

リム・キムリー (CLEAN モニタリング・調査・情報管理担当) 活動村が緑豊かな村になって、農家の人たちの生活が改善されるよう努力する。

坂本 貴則 (CLEAN プロジェクト担当) 農家の人、JVCのスタッフにとってプロ ジェクトが学びの場になるよう努力する。

ティー・チャントゥイ (CLEANフィールド・スタッフ) 多くの農家が栄養菜園に取り組んでくれる よう努力する。大学院で経営を学びたい。

コウン・コル (CLEAN フィールド・スタッフ) プロジェクトを良くするために、個々の活動を分析する。大学院で農学を学びたい。



小林 和香子(現地代表) 今年こそはパレスチ ナ料理をちゃんと作 れるようになりたい。 福田 直美(現地調整員) ウード(弦楽器)を弾 けるようになって、 タブラ叩きの友人と バンド結成へ。

パレスチナ事務所 (2名)





ル・ソマ 下枠をから:ワグマ、ファイサ



アフガニスタン事務所(28名)

シャー・モハマンド (運転手)

子どもが8人いるのでもう十分ですが、皆が元気に育ってほしい。

ズルフィカール・ファズリ(診療所薬局担当)

質の高い医療を提供できるよう、大学で勉強を続けます。

フェダー・モハンマド (ワクチン接種担当)

予防は治療に優る! 子どもに致命的な感染症の撲滅を。

モハンマド・ナシーム(医師、診療所長)

アフガンの平和とゴレーク地域の人々の健康を祈ります。

ジャンナト・グル (診療所門衛)

ゴレーク診療所が大きくなりますように。

ハビーム・ラフマーン(診療所守衛)

サラリーがあがりますように。

ナビ・ジャン(運転手)

すべてのムスリムが平和で幸せに暮らせるよう祈ります。

フルシード (ワクチン接種担当)

アフガンの平和を祈り、知識と技術の研鑚に励みます。

アブドゥル・ワハーブ (医師、地域保健トレーナー)

JVCの地域医療を担うスター★を目指します。

モハンマド・アミン (診療所看護師)

アフガンに平和が訪れるよう!人々の健康改善に尽くしたい。

ルトゥフル・アハド(診療所検査技師)

我が国の人々が健やかで幸せに暮らせるよう祈ります。

サマル・グル (女医、診療所外来担当)

ゴレーク地域の女性たちの健康のためによりよい医療が提供できるよう精進します。

グル・ソマ(助産師、母子保健外来担当)

母子保健の改善に最善を尽くし、家族・親戚の健康のために 我が家の保健も頑張ります。

ワグマ(コミュニティー助産師)

乳幼児の死亡が減るように、伝統産婆の技術を高めて母子保健の改善に努めます。

ファティマ(地域保健トレーナー)

今年も JVC で人々のためにいい仕事ができますように。

ファイサル (パキスタン事務所)

長い間戦渦に置かれたアフガニスタンの人々の健康をよくするようにがんばります。

スーダン事務所 (13名)

今井 高樹 (現地代表)

南部スーダンの言葉と伝統楽器を習いたい。

サイモン・シキ (工場長)

インジェクションポンプ (燃料をエンジンに噴射するポンプ) 修理の研修を受けたい。

ビタレ・オケチ(整備士兼渉外)

JVCがプロジェクトを始めてからバイクの 運転を覚えたので、次は自動車の免許だ!

サミュエル・オリン (板金工)

-流の板金工・溶接工になる!

アレックス・アムレ(整備士)

今年は素敵な家を自分で建てるぞ!

モーゼス・マンザ(整備士)

家の建て替えをしたい。

チャールズ・オジャ(運転手兼整備士) 運転手としても、整備士としても 自分の仕事に磨きをかける!

グウィーン・スコーパス(会計)

パソコンを覚えて仕事に役立てたい。

フォエベ・ドゥドゥ(総務)

パソコンの腕を上げて人にも教えたい。

アレックス・ジョン(警備員)

今年ではなく、いつか日本に行きたい!



アンドレア・ワニ (警備員) 家の草ぶき屋根を、

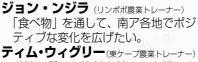
トタンにふき替えたい。 **井谷 正吾** (テクニカルアド

オ古 正古 (ナクーバルア) バイザー)

工場の自立に向けて、 仕事をしすぎない。

坂本 健 (テクニカルアドバイザー)

ジュバ・アラビック (南部スーダン共通語のアラビア語方言) が話せるようになる!



ティム・ウィグリー(東ケープ農業トレーナー) 環境に優しい資材を使い、自然エネ ルギーを利用した家を自分で建てる。

水寄 僚子 (HIV/エイズ・プロジェクトマネージャー) 12月の結婚に向けて、美白に励む。

津山 直子 (現地代表)

南アフリカに関わって生きてきた20年間を振り返り、これからの人生を考える。

ドゥドゥジレ・ンカビンデ(アドミニストレーター) やさしくスリムなパートナーを見つけ、歌声の絶えない家庭を築く。

南アフリカ 事務所 (5名)









エルサレム市在住

ラムジー先生



東エルサレム周辺の壁。 写真中央をほぼ まっすぐに横切っている。



诊察の様子。 診察前に、家族や学校の話な 子どもをリラックスさせるのが上手。

子どもたちを医師として支え

親の世代になって今度は

『教育を受けている今の子どもが、 やがて自分の子に伝える。それが エルサレムの将来を支えていく』

の教育を受けている子どもた

パレスチナ 東エルサレムでの活動

を行なっています 応急処置講習など 康診断、健康教育^{*}

園などを対象に、健 に、主に学校や幼稚 そこでJVCは、地元の医療NGOであるMRSととも 教育や医療へのアクセスが困難になっています。 東エルサレ

分離壁の建設によって地域の分断、隔離が進む東エルサレ

周辺の分離壁の両側の学校で、 残念そうに言います。それでも、 教育のニーズは増えている」と 的にHIVや薬物使用に関する る。エルサレムでの生活に対す で学校保健事業に携わって今年 のための活動がしたいと、エル る彼らの不安を感じるし、全体 がどう変わったか聞いてみると、 処置講習などを行なっています。 JVCと一緒に健康診断や応急 で六年目に。現在は、エルサレム サレムの医療救援協会(MRS) 加しました。その後、子どもたち (PMRS)の巡回診療に二年間参 してパレスチナ医療救援協会 病院研修を経てボランティアと ロシアでの医学の勉強の後に 一今、心と体の健康を維持するた 前よりも覇気がなくなってい スチナ人のラムジー先生は この五年で学校の子どもたち エルサレムで生まれ育ったパ ちが、 子どもたちに教える、 ルサレムの将来を支えていく」 と、先生は信じています。

答えました。 と思う」と、少し背筋を伸ばして 彼の自由さ」と笑いながらも と言います。お子さんの将来に サレムで暮らしていってほしい. 達とこれからも変わらずにエル す。「僕の子どもには、家族や友 れてしまった人たちも多くいま 分離壁によって住む地域が分か 通っていた友人の中には、 隣り合わせの生活を送っていま めになる仕事をしてもらえたら ついて聞くと、「彼の将来だから 持ちながら、入植地や分離壁と 冢屋の取り壊しなどへの不安を ている一方、先生自身もエルサ 「エルサレムのパレスチナ人のた レムに住むパレスチナ人として 先生が幼い頃に同じ学校に

スタッフのひとりごと

もうひとつの国際交流

经理拒书 計變 政昭

以前からボランティアで留学生の 受入をしている。イタリアから来る 学生さんが多いが、これが結構大変。 サプライズの連続だ。

まずは、ご飯。イタリア人だから、 たまにはスパゲッティーでも作って くれるのか、という期待は、すぐに裏 切られる。彼らにとって、食事はマン マが作ってくれるもの。仕事の帰り に飲みに行こうと誘われても、「お腹 をすかしてる留学生にご飯を作らな いといけないから、遠慮するわ」とい う、奇妙な会話をするはめになる。

イタリア人というと、一般的に陽

気で明るいというイメージだが、日 本のアニメに影響されたオタクが多 い。すぐに「秋葉原に行きたい」と言 いだす。最初、僕もアキバに付き合っ たが、誤解されないように言うと、僕 には何がいいのかよくわからない。 以前、『電車男』というドラマがあっ て、あれは僕も面白いと思ったが…。

こんなこともあった。僕の自宅は、 田園都市線の始発駅というとてつも なく遠いところにあるのだが、来日 したばかりのイタリア人のペドロ君 は、夜遅くなっても帰ってこない。結 局、深夜1時頃に帰ってきたのだが、

> 争は起き、予備役の彼も最前線に ひとつに過ぎなかった。しかし戦 に応じたのも、人生の中の挑戦の

> > と訴えている。

一人の子どもたちの物語に比べ

ていた。戦争が起きるとは予想も のよい家を買ってあげたいと思っ 産会社の後を継ぎ、両親に居心地 営学を学び、叔父の経営する不動

していなかったし、海兵隊の募集



イラスト/かじの 倫子

心配して「どうしたの」と聞くと、「と にかく、終点まで行こうと思い、久喜 まで行っちゃいました。渋谷から、逆 方向に行く電車に乗っちゃったみた いですね。ハハハ…」と、明るく笑っ ていた。なんでも明るく、前向きに生 きていくのがイタリア流、というこ とか…。

とにかく、滑って転んでバタバタ の留学生との日々。4月からはマレー シアの学生さんが来ることになって いる。国際交流も楽ではない。

『**アンディとマルワ** ィラク戦争を生きた二人の子ども』

ユルゲン・トーデンヘーファー著 平野卿子訳 1.700円+税 岩波書店



元JVCイラク事業

原文次郎

私た

も奪った。この時、マルワ十一歳 のある家を買ってあげられる。 女の妹の命を奪い とを夢見ていた。夢が実現すれ 庭に育ったが、小児科医になるこ 二人の運命を変えた物語は〇 、両親に水道とちゃんとした庭 運命の日、 米軍の爆撃は彼 マルワの右足

亡くなった。享年十八歳。 送られ、イラク軍の砲弾を受けて イラクの少女マルワは貧しい家 く れる。 欧米の人々だけではない。 の従来からの考え方を越えられな は訴える。欧米諸国の人々や政治 さない賢明さを持つべき」と著者 戦争の現実を知り、これを繰り返 言葉を語る側に立つのではなく ろに響く。「私たちもこの空虚な 戦争」と呼ばれる物語に私たちも **ち』の中には日本の私たちも含ま** い限界もある。 という言葉の使い方にしても欧米 家を対象としているので、 ブッシュ大統領の演説の言葉は虚 える課題を引き受けるべきなのは 参加しているのだから。 随所に挿入されている米国 九月十一日以降の しかし、 本書が訴 「対テロ -------

みるよむきく

日に暗転する。米国の高校を卒業 子どもたちの運命は〇三年四月七 るで関係ないと思っていた二人の したばかりのアンディ。大学で経 米国 人とイラク人、 戦 争などま 九月十一

度と駆り立てられるべきでない 味な戦いへとヨーロッパ諸国が 戦争のような国際法にもとる無意 の姿を政治家につきつけ、 ら歴史を語ることでその戦争の真 反対した国だ。著者は二人の物語 者である。ドイツはイラク戦争に 政権与党で保守政党の議員の経験 を通して、戦争の犠牲者の立場か トーデンヘーファー氏はドイツの 日から始まる。 イラク

JVCプロジェクト一覧

JVCは、現在10の国/地域で活動しています。

カンボジア

■生態系に配慮した農業に よる生計改善(CLEAN)

07年からシェムリアップ 県35村で活動。米の収量が 増える幼苗一本植え(SRI)の 紹介ビデオを夜に上映し、各



■資料センターで利用者記録を確認 する図書運営委員。

村 100~200人が鑑賞。食の安全と栄養について啓発する料 理コンテストと家庭栄養菜園の研修を実施した。

■持続的農業と農村開発(SARD)

安全な水や食糧確保を目指し、94年からカンダール県50村 で活動。コメ銀行が貸付米を返却。5小学校で環境教育。プノン ペンで土曜に行なう大学生向け環境教育の第一回目の評価をし、 第二回目の研修計画を立て公募の準備をした。

■資料・情報センター(TRC)

持続的農業、農村開発、環境に関する資料を94年から提供。 蔵書カタログを更新した。CRCは利用者が使いやすいように場 所や貸し出し方法を図書運営委員会が創意工夫している。

■技術学校

85年にプノンペンで職業訓練校と付設整備工場を開始。移転 先の建設は完了したが、建設許可が下りてから引越す予定。

■アドボカシー/調査提言/ネットワーク活動

大使館 /NGO/JICA/JBIC 定期協議会の人権 / グッドガバナ ンス分科会を共催、農業勉強会に参加。(以上米倉)



タイ

■農村派遣研修

国際協力や自然環境保護に 関心のある人を対象に、 NGO などの活動が入ってい るタイの農村に滞在し、「開■ワンワールドフェスティバルでス 発 | のこと、「NGOの役割」、

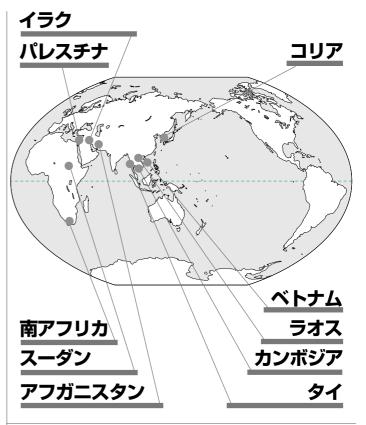


タディーツアーを紹介。

「生きる」ことについて村人の声に耳を傾けながら真剣に考え・ 学ぶ研修プログラムを企画している。 応募者の面接を行ない 2 名の研修生を採用した。5月から1年間、タイの農村へ派遣する。

■スタディーツアー

3月中旬に、これまでJVCが活動してきた東北タイを訪問す るスタディーツアーを企画している。2月に大阪で開かれた国際 協力をテーマにしたイベント「ワンワールドフェスティバル」に 参加し、国際協力に参加する方法としてスタディーツアーと農 村派遣研修を紹介した。(以上下田)





ラオス

■森林保全

生活の源である森を守り、 村の権利を確保する活動を 「土地森林委譲」という制度を 森林委譲を実施したブンフォ



利用して行なっている。土地 ■灌漑の影響や効果を話しあうワー クショップを開催。

アナータイ村、タナー村、ナタン村の森林利用状況の把握のた め、各村の土地森林委譲委員と近隣村との境界線問題などにつ いて話しあった。減少する林産物の持続的利用の一環として、昨 年6月からラタン(籐)の育苗場を作り、育成している。順調 に成長して植栽時期を迎えており、分配や植栽方法に関して村 人と話しあいを重ねている。

■複合農業・生活改善

十分な食料確保のために、米の収量を上げる稲作技術の「幼 苗一本植え(SRI)農法 | を実施。ドンドゥー村では、一本の苗 から50~80の分けつが見られている。1月に灌漑の影響など に関するワークショップを実施し、雨季と乾季稲作、SRI農法と 化学肥料使用の方法などに関して話しあった。水資源確保では、 隣県で行なっている水ポンプを試験的に3村で実施。貧困層支 援として、家庭菜園にてガーリック植栽を実施中。(以上尾崎)



イラク

■ガン・白血病医療支援

不足している医薬品を JIM-NET (日本イラク医療支援 ネットワーク) との連携で提供 している。引き続きバグダッ ド、バスラ、モスルの4つの



■豆類の支援が、避難生活で不足しているタンパク源を補っている。

病院に抗ガン剤や抗生物質などの医薬品を支援した。2月にはバスラやモスルの治安が悪化し、病院の関係者が脅迫されたり殺害される事件が多発。そんな中でも病院に通い続ける医師から、医薬品の要請が届いている。JIM-NETでは今年も資金調達の一つとしてバレンタイン時期にチョコレートを販売し、1000万円以上の収益を得た。JVC もイベントなどで販売に協力した。

■国内避難民支援

治安の悪化で約230万人の人々がイラク国内で避難生活を送っているが、食や医療など基本的なニーズにアクセスできない避難民が多い。JVCは現地団体と協力し、収入がないなど特に困難な状況にある家族を対象に、米と豆の支援を昨年10、12月に行なった。1月に届いたレポートで、食料支援が無事行なわれたことが伝えられた。依然として避難民は失業や教育など多くの問題に直面しているとの報告もあった。(以上谷山)

一 ベトナム

■農村開発

07年度より土壌流出防止と食料の安定的な確保を目指して第二フェーズを実施している。20年ぶりとも言われる寒波に襲われ、牛・水牛の



■寒さに弱い水牛は、布団を着せられて寒波をしのぐ。

平均10%ほどが寒さで死亡した他、ナムソン村やバクソン村では冬春作の苗が枯れてしまった。稲作の時期は限られているため、多くの村人は冬春作を断念せざるを得ず、トウモロコシや野菜を植えるなどで対応する予定。牛や水牛を失った世帯については、牛銀行などで優先的に牛を借りられるよう配慮することを村づくり委員会との月例会合で確認した。通常の活動については、土壌流出防止を目指し、植林や等高線農業に取り組む意欲を持つ村人と会合を持ち、各世帯ごとに傾斜地の利用方法や3月に植える植物について計画を立てた。

■ネットワーク

2月15日にベトナムのNGO・CCRDが開催した「安全な野菜」栽培に取り組むハノイ近郊の合作社に関して紹介するワークショップに参加した。(以上伊能)

スーダン

■車両整備を通じた難民 帰還支援

国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) との事業提携に より、「車両整備による難民 帰還支援事業」と、元難民の



■実習だけでなく理論の勉強にも励 む研修生。

若者を対象とした「整備士研修による帰還民定着支援事業」の 二本柱による活動を行なっている。

整備工場の評判が広まるにつれ、工場に持ち込まれる国際NGOや南部スーダン政府などの車両が増加している。UNHCR以外の一般顧客からは適正な料金を受けて工場収入としているが、2月にはこの収入が過去最高の7,877スーダンポンド(約40万円)を記録した。この収入は、工場長らスタッフの立てた計画に基づき、工場設備の改修など将来に向けた投資に活用される。昨年まではJVCの支援で行なわれていた設備改修だが、3月には老朽化したフェンスの改修工事が工場収入を活用して実施された。一方で、受入車両の増加に伴って整備士の不足が深刻な問題になっている。整備士2名のリクルートを開始した。

整備士研修はプログラムを続行中。工場に入る車両増加に伴って作業量が増え、研修生にとって多くの経験を積む機会となっている。彼らの技術、知識レベルの向上は著しい。(今井)

南アフリカ

■環境保全型農業(東ケープ州)

安定した食料生産と農村地域の復興を目指し、環境保全型農業の研修と普及を実施している。カラ地区でO7年10~11月に実施した環境保全型農業の実践者が他の村人に教える資質を向上させるTOT(トレーナーのためのトレーニング)の事後研修を行なった。TOT参加者は、現地語のコサ語で書かれたハンドブッ



■菜園トレーニングの修了 式で、民族衣装を着て修 了証を受け取る受講者。

クを活用し、野菜栽培をしていなかった近所の人たちに畑の作り方、野菜栽培、雨水の有効利用法、種の保存などを教えている。(津山)

■ HIV/エイズ(リンポポ州)

感染予防、在宅介護、HIV 陽性者やエイズで親を亡くした遺児への支援、栄養改善のための菜園づくりなどの活動を現地NGOのポロションと協働で実施している。菜園トレーニングは、6ヵ月間のトレーニングの最終段階として、各参加者が今後の計画(共同菜園や学校菜園を始める、近隣の人たちに教えるなど)を立て、発表した。3月15日に修了式を行ない、今後は菜園実践へのアドバイスを行なっていく。(水寄、津山)

パレスチナ

■幼稚園児栄養改善支援

ガザの幼稚園児約550人 への栄養改善支援。西岸ヘブ ロン産の牛乳と西岸ラマッ ラー産のビスケットを配布 中。園児たちへの聴覚障害早 期発見検査実施中。ガザの栄



■ガザへの軍事侵攻では一般市民や 医療団体も犠牲になった(写真は 破壊された救急車)。

養失調児への治療用栄養食提供プロジェクトは4月再開に向け て準備調整中。(小林)

■巡回診療支援

パレスチナの医療NGOによる、エルサレム周辺の学校・幼稚 園などでの巡回診療・健康教育を支援。また、同NGOのガザ本 部が2月にイスラエルの攻撃により破壊されたのを受け、現在 緊急支援を調整中。(小林・福田)

■子どもの文化・教育支援

ベツレヘムの難民キャンプであるハンダラ文化センターを支 援中。(福田)

■収入創出支援

上記センターの女性グループの刺繍プロジェクトを支援。女 性たちが中心となって立案した研修旅行を計画中。(福田)

■アドボカシー

国際開発機関共同体(AIDA)を代表して、2月5日に中東和 平カルテット(アメリカ、ロシア、EU、国連)の特使トニー・ ブレア氏と会見し人道支援物資の定義拡大を要請、アドボカ シー委員会では3月13日ガザにおける即時公式停戦を求める 声明を草稿・発信。また、一般市民やパートナー医療NGOの本 部も被害を受けたガザへの空爆を批難する声明を2月29日に イスラエル・パレスチナ・国際NGO共同で署名・発信。(小林)



調査研究・政策提言

■第6回 国連改革パブリックフォーラム

3月3日、国連政策について市民と政府で話しあうパブリッ クフォーラムの第6回目が東京の三田共用会議所で開催され、 約120名が参加した。開発分科会では、援助効果向上と国連の 役割について、また平和構築では日本の平和構築の人材育成に ついて高橋がファシリテータを担当した。この他に、気候変動 について、アフリカの紛争と平和構築、核不拡散や国際刑事裁 判所 (ICC) について、NGO や専門家、政府関係者の間で活発 な議論が交わされた。

■ NGO 外務省 ODA 政策協議会

3月6日、ODA政策についてのNGOと外務省による定期協 議が開催された。日本の保健セクター分野に関する支援とODA 評価における NGO 参加について議論した。(以上高橋)

■女性と子どもの健康改 善のための地域保健事業

現地代表の交代および年度 変わりにあわせ、07年度の 反省と08年の計画を全ス タッフで共有し、08年は前



■教員研修で模擬授業をする、緊 張気味の先生(左)。

年達成できなかった病気予防の試みなどに力を注ぐことを確認。 ◎診療所支援:活動地域の中で最も遠い村のひとつクズカシ コート村の代表者からサブセンター(医者1人助産師1人の小 規模診療所)設置要請を受け、今年半ば頃から診察が始められ るよう準備を開始した。また、昨年5月から平均月一回行なっ ている村での妊産婦検診で安全な出産への関心が高まり、診療 所を訪れる妊産婦の数が増えていることがわかった。

■教育支援

07年に引き続き郡内の全小学校低学年の教師72名(男性62 名、女性10名)を対象に1月21日から12日間の教科書指導 法(小学校2年生向け)に関する研修を実施した。また学校長 の関心を高めることも必要という昨年の反省を受け、4日間の校 長向け研修も実施した。

■政策提言・ネットワーク

日本アフガニスタンNGOネットワークを通じ、2月5・6日 に東京で開催された「アフガニスタン共同調整モニタリング ボード」国際会合への提言活動を行なった。また現地で活動す る際の安全対策をNGO間、外務省と共有した。(以上長谷部)



コリア

■『南北コリアと日本のと もだち展』(子ども絵画 交流)

『南北コリアと日本のとも だち展』実行委員会が行なわ ■6月の東京展に向けて作品募集を れ、08年度の絵画展開催が



開始。

決定した。6月末の東京展に向けて『私のともだちをしょうかい します!』のテーマで、自分と親しい友人のことを、南北コリ ア、そして日本に住む子どもたちに向けて発信する絵を募集す る。また、これに伴なって韓国の協力団体である「南北オリニ オッケドンム | を訪れ、絵画の提供および日韓の子どもたちの 相互訪問、交流について合意した。年度内に平壌側とも調整を 行なう。

なお、今後の国内での出張展示としては、3月のワンコリア フェスティバル、5月のあーすフェスタかながわ2008などが 予定されている。(寺西)

テレカ基金から生まれた学びあいの場 in カンボジア

リコーテクノシステムズ株式会社 「自ら考え、気付き、 行動できる人づくり | のカンボジア視察

ストカード仕分け封入作業など様々 売や各国クラフトの紹介、 前。現在では、JVC活動報告会の開 ンボジアに関して、まず現場に足を **な活動にご協力いただいています。** 社内CSRイベントでの物品販 協働のきっかけとなった力

J V C ポ

を事務所へ持参くださったのが三年 から徒歩で二十分、 用済みプリペイドカードや古切手が 学校、労組、企業などの皆様から、使 ア基金』には、全国の個人、グループ、 あるリコーテクノシステムズ株式会 送られてきます。JVC東京事務所 チームの『使用済みテレカ・カンボジ JVCカンボジアボランティア 社内で集めたカード類 浅草橋に本社の

カンボジア事業担当 鈴木 まり



『使用済みテレカ・カンボジア基金』とは

JVCのカンボジアでの活動を支えるボランティ アによって企画・運営されている基金。送られてくるプリペイドカードなどを仕分けし、カー ド取り扱い業者などを通じて換金、JVCに寄付 していただくことで、JVCカンボジアの活動に 活用されています。詳しくはホームページを。

置き、 視察研修企画に協力しました。 活動の推進力としていくための現地 フの話を聞いて理解を深め、 現地では、研修や活動一つひとつ 活動地の人々や関わるスタッ 、今後の

らなるきっかけとなれば大変うれ うです。今回の現地訪問が、社員の皆 や活動に関心を持って行動する、 さんがJVCやNGOの活動する国 の伝え方、ファシリテーションに触 めて実践と改善につなげること、そ 共有すること、 く思います 見つけて早速活用くださっているよ して思わず惹きつけられるスタッフ について最初に目的を村の人たちと 社内での取り組みとの共通性を 関心を持ち理解を深

http://www.ngo-jvc.net/vteam/cambodia/

||支援先現地力ンボジア視察を



校を訪問。

活動に取組んでいきます。

け入れにご協力いただきありが

最後になりましたが、視察受

とうございました。

環境教育に取り組むタプラープ小学

自ら考え・気づき、行動できる人 知ることができました。何かを 援を受けている農民の皆さんと おいてリーダーシップを発揮す 直接話し、支援の効果や実績を ノレゼントする支援ではなく カンボジアでJVC職員や支 の行動につながる伝え方」 での改善プランとそのスケ 早速、社会貢献を推進する上 『できることで社会に貢献す る社員』を育成

を深め、社会貢献活動の推進に

現地での活動を見ることで理解

今回の視察に参加した社員は

周囲に伝えていきたいと推進へ の思いを強くしました。

を自分たちだけのものにせず

参加した社員一同、この経験

ることが期待されています。

ニューも検討しています。 社員が気軽に参加できる テーマに取組むことにしました。 動のサイクル」を参考に、「社員 ジュールを検討し、JVCの「行 また新たなJVC支援として、 立つと考えて、今後も社会貢献 動できる資金作りにも、 ることが、 社会に貢献する社員』を育成す 員が活動を知り、『できることで してきましたが、より多くの社 ボジアの農民の生活改善を支援 当社はJVCを通じて、 NGOが継続して活 お役に カン

広がっていく。時間はかかって

自立へ続く道だということ

つくり。成功体験がじわじわと

CSR本部企画室 リコーテクノシステムズ株式会社 西尾 英子さん



募金にご協力ありがとうございます

JVC の活動は、皆さまの募金に支えられています。 JVCへの募金は税の優遇措置を受けることができます。

① JVC 募金 (郵便振替)

JVC の各国での活動に役立てられます。募金先 をご指定いただくこともできます。

口座番号:00190-9-27495 加入者名: JVC 東京事務所 2,796,346 円 1月計 2月計 9,472,797 円

	1月	2月
無指定	390,459円	8,250,845円
タイ	0円	6,500円
カンボジア	0円	103,500円
ラオス	103,000円	364,000円
ベトナム	8,000円	1,000円
南アフリカ	69,038円	5,000円
パレスチナ	371,749円	671,266円
アフガニスタン	1,573,100円	55,686円
コリア	30,000円	5,000円
イラク	251,000円	10,000円
スーダン	0円	0円

②犬養道子「みどり一本」募金

JVC 活動地での環境保全活動に使われます。

> 口座番号:00100-8-212497 加入者名:犬養道子「みどり一本」

281,500 円 / 25 件 159,500 円 / 14 件 2月計

③ JVC マンスリー募金

銀行や郵便局の口座からの自動引き落としを利 用する手軽な募金方法です。

1月計 1,688,400 円 / 1,420 件 1.653.400 円 / 1.429 件

編集後記

MT4LP5 という WEB 関連のイベント に参加してきた。MovableType (WEBサ イト管理ソフト) に関するもので、そのス ジで国内トップクラスの方々が多数登壇、 400名の参加者もほとんどがプロばかり。 熱すぎる! 昨年から使っていたソフトだ が、こういう流れは外野で眺めてるよりも ノッたもん勝ちだ。最近眠ってたソフト屋 ダマシイに火がついた。JVCのサイトにも 今後適用予定、1年後をお楽しみに。(H)

思っていました。 - 地道な作業の繰り返し」 だと思っています。 そう 農家の方と話し、) [試練]

を経て、

坂がある 貴族の別

新スタッ

カンボジア農村開発担当

の生活が知りたい」。そう思っ そのために農村に住む人たち 一農村開発の仕事がし

話になったみなさんにいつか恩返しができればと カンボジアで働く機会を得ることができました。 「農村開発の仕事」は決して華々しいものではな ムステイをしたのが五年前。 協力隊でのバングラデシュ駐在 てカンボジアの農村で四 生活について一緒に考える 今回JVCの職員として その時にお世 「 カ 月

イベント報告

うな場を積極的に提供していきたいです。

人間関係を作る努力をしたいと思い

ます まずは た積み重ねの中で、

方々に学びとなるよ

イラク戦争から五年 ~今、中東の現場は~

2008年3月20日(木) 13:30~16:30



豊島区生活産業プラザ「エコとしま」にて

イラクに滞在中のメンバ

告を受け、 とイラク北部からの声が会場に響きました。 グダッドからの避難民が北部に流れてきています 弘氏による報告は、 携帯電話をつないでの生レポートでスタート。「バ アジアプレスインターナショナル代表の野 アフガニスタン、パレスチナの 国際政治学者の武者小路公秀氏が中東

類益それぞれの立場で判断 析。中東問題は米国、国連、 は完成しだいホ 度の高い三時間 ルディスカッションが続いた密 いると語りまし なるために理論的混迷に陥 します。 た。 当日の講演録 さらにパネ

を深める中東の状況をJVCが伝え、 一名の会場は満席に。 パポジウムを開催しました。 イラク戦争開戦から五年となったこの日 N G O 雨にもかかわらず八 が意見を出しあ ジャ

2007年冬募金にご協力くださり、 ありがとうございました。

JVC現場報

と国際社会の関係を大局的に分

カンボジアの農民、南アフリカのHIV 陽性者…、皆様のご支援は多く の人の暮らしを改善する力になっています。この冬は、1.200万円を 超えるご支援をいただきました。ご協力に心より感謝申し上げます。

2007年冬募金合計

1.664名 12,110,144円

[募金額の20%以内は管理費とさせていただいています。また、上記冬募金 の金額は、ページ左上のJVC募金の欄には含まれておりません。]

会員専用ページパスワード(5~6月)→→→

6UirbMPaS2

※ JVC ホームページの会員専用ページでは、T&Eのバックナンバーを順次公開 中です。現在、この作業を手伝って下さる方を募集中。細野までご連絡を!

九

特定非営利活動法人 日本国際ボランティアセンター

第9回 JVC 会員総会のおしらせ

日時: 2008年6月14日(土) 10:00~13:00

会場: 豊島区立生活産業プラザ『ECO としま』 多目的ホール

議案:1)2007年度活動報告および決算報告 2)2008年度活動計画および予算案

3) 役員改選

年に1回、多くの会員の方々と一同に集える場である会員総会を今年も実施いたします。 JVCの活動を通して世界各国の課題を共に考える場でもあります。ぜひご参加ください。



■活動報告を行なう事務局長の清水(左)。昨年度の報告 は本誌 no.260 に掲載。



■パレスチナを感じるための、『壁』に囲まれて理不尽 な検問を体験するワークショップ。パレスチナボラン ティアチームの主催で実施。(昨年度交流会より)

午後($14:00\sim16:00$)、交流会「JVC のつどい」を企画しておりますので、ぜひご参加ください。 ※参加される場合は昼食をご持参ください。詳細は、6 月初頭に別途お送りする議案書に 同封 / 記載いたします。

Japan International Volunteer Center

日本国際ボランティアセンター(Japan International Volunteer Center)は、1980年2月、タイのバンコクで誕生した市民による国際協力団体です。JVC の活動目的は、国際社会のなかで、社会的、精神的、物理的に困難な立場を強いられているアジアやアフリカ・中東の人びとに協力すると同時に、地球環境を守る新しい生き方と人間関係をつくり出そうということにあります。そのため私たちは、自らの意志でJVC に参加し、活動を継続してきました。JVC はボランティアという言葉を、「自発的意志をもって、責任ある行動をとる」という意味で団体名として使っています。

■JVCでは会員を募集しています。

会員は総会に出席し、JVCの方針などを決定するほか、情報・資料の入手、各種の活動・報告会・学習会等へ参加することができます。会員の方には年6回この会報誌と年次報告書をお届けします。

◎一般会員 10,000 円◎学生会員 5,000 円◎団体会員 30,000 円※それぞれに正会員と賛助会員があります。

入会のお申し込み、会員の方のメールマガジンのお申し 込み、住所変更などは会員担当の寺西へ。

→ s-tera@ngo-jvc.net

会員数 (4月3日現在) 合計 1,301人 (正会員 622人 賛助会員 679人)

■オリエンテーション(説明会)へお越しください。

JVCの活動内容をご紹介しています。お気軽にご参加ください。 (無料。予約不要です)

第1月曜日 午後7:00 - 8:30 第2・第4土曜日 午後2:00 - 3:30 ※会場はJVC東京事務所です。

■ E-mail ■ホームページ

info@ngo-jvc.net http://www.ngo-jvc.net/

※本誌の記事・写真等の無断転載・複写を禁じます。

本誌は、日本の森の間伐材を有効利用して作られた用紙 「間伐材印刷用紙」(古紙90%、間伐材パルプ10%)で 作成しました。

